



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

令和5年1月20日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

フリガナ ムサチョウナイカイ

団体名 牟佐町内会

所在地

連絡先

フリガナ

代表者 役職・氏名

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ☒ ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	「産地牟佐」にこだわった地域活性化
事業実施小学校区・地区	牧石学区・牟佐町内会
事業実施回数	新規 ☒ 継続 7回目 / 【平成29年度から】
課題	※地域の実情と解決をはかりたい課題、事業実施の必要性について記載してください。 近年、我が地域は、農家が積極的に黄ニラやパクチーを全国的に売り出し、大きな注目を浴びている。一方では、山と川に囲まれた豊かな自然があり、種々の自然資源が存在するが、今日では、ごく一部の人がそれらに関わるばかりで、一般の住民や子供達がそれらに直接触れる機会はほとんどない。その存在も、ましてやそれらが活用できる資源であることも知られていないのではないかと。日常にある、あるいは身近にあることは知っていても、触れることがないために、その価値を知らない、わからない。これは地域にとっては大変に残念なことと言わざるを得ない。また、古くから地域に伝わってきたみそづくりの文化の灯が消えかかっており、併せて世代交代も待たなしの課題となっている。
事業の目的	※事業を実施する「目的」を記載してください。 大切な自然の恵みが身近に存在するということを知り、ワークショップ的に活用し、より地域に対する愛情、誇り、アイデンティティの醸成などにつないでいく。 併せて、それらの資源を加工・販売し、町内に収益として還元できる取組みを継続する。 さらに、地域に受け継がれてきた「産地牟佐」手づくりみその文化の灯を消すことなくその伝承と住民への啓もうを事業の目的に位置付けたい。

※具体的に実施する活動内容を箇条書きで記載してください。

町内の農家、猟師とまちづくり協議会等との連携により、

- ・町内での農産物被害対策としての有害獣の駆除活動の紹介・学習
- ・町内で駆除されたイノシシ等のジビエ利用や皮革活用（ワークショップ）等を通して自然資源の大切を学ぶ。

これについては、過去の取組みの参加者アンケートからも明確で、ワークショップに対する住民の関心度、満足度はとても高い。引き続き、参加の機会拡大に挑戦してみたい。イノシシにとどまらず、鹿の被害から駆除も始まっている。ジビエ料理（シシ肉入りカレー、しし汁等）も好評であったことから、そのPRのためにも、いわゆる子ども食堂的なものをイメージして、もう少し広く提供できないか検討してみたい。コロナ禍にあって、全く思うような事業ができていないが、あきらめることなくイメージしておきたい。

- ・令和元年に立ち上げた「産地牟佐塾」において、町内で駆除された獣皮を活用した革製品づくりを継続および技術向上に取り組み、引き続き「産地牟佐」のブランドづくりに挑戦する。

「産地牟佐塾」で、加工の専門家に指導を受けながら、対価を得ることができるよう「産地牟佐」ブランドの製品づくりに取り組んできたが、さらに完成度の高い製品にも挑戦し、「産地牟佐」のブランドづくりに挑戦してみたい。しかし、残念ながら昨年も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定した地域行事を中止せざるを得なかった。そんな中、4年ぶり開催の地元の岡山刑務所矯正展への参画から始まり、同じく4年ぶりの町内会内部向けの「産地牟佐」イノシシ革を活用した大人のレザークラフト教室が開催できた。さらに、市役所1階ロビーで開催された野生鳥獣・林業振興パネル展、牧山ラインガルテンでの収穫祭、日本遺産構成文化財の一つである牟佐大塚古墳を中心とした歴史ウォークへ参加された内外の参加者に「産地牟佐」革製品の紹介・販売するなど、積極的な作品販売に挑戦を続けた。そこから、店頭でのワークショップは市民の関心が非常に高いことが感じられ、新年度事業においても私たちの一つの特長として継続したい。

- ・里山の資源を活用

里山に多種存在する「産地牟佐」の樹木やどんぐりを資源として活用できないか。あるいは、戦後も続いていたと聞く山中のあちこちで普通に行われていた炭焼きの復元ができないものか等々、人々が山から遠ざかり、荒廃が進む里山を資源として見つめなおすことを検討したい。

- ・町内での蜂蜜づくりの挑戦・紹介・学習
- ・地元の旭川で獲れた鮎、川ガ二等の紹介・学習・試食
- ・町内にある「太戸の滝」の紹介
- ・町内の自然や暮らしなど地域をテーマにした写真展の開催

コロナ禍でのイベントはまだまだ開催できる状況ではないために、昨年同様の計画を続けたい。

- ・みそづくり文化の伝承

古くから地域で取り組まれてきたみそづくり文化・技術の伝承に取り組む。JA女性部有志が、みそづくり支援チームを立ち上げてくださったことから実現できるもの。みそづくり文化を町内の次世代へつないでいきたい。

※実施する感染防止対策の内容・方法など、具体的に記入してください。

- ・事前の健康管理等周知徹底・入室前検温・アルコール消毒・マスク着用
- ・ディスタンス確保・室内の換気・時間短縮に努める・状況により開催中止

期待される成果・目標	※事業実施することで、変化すること、期待している成果、事業実施後にどこまで到達しておきたいか「目標」を記入してください。 ・害獣皮革製品の販売収益の拡大は、スタッフにとっても、町内会にとっても大きなメリットとなる。 ・参加者にはアンケートに協力いただき、意識の変化や事業への期待を読み取り、事業の目的がどの程度達成できているかを調査したい。 ・みそづくりの機器の不調があれば持続は不可能なことであり、それらハード面の整備で先輩世代の安心感が生まれる。技術継承のための残された時間は、限られたもので、若い世代のみそづくり参加者が少しでも出てくれば、大きな成果と言える。 ・里山のどんぐり、樹木などが大切な資源でもあることが体感できるようになれば、まさにSDGs そのものを実現することにつながる。
企画などの工夫	※通常、日常的に実施している事業をそのまま提案された場合は、対象とならない可能性があります。区づくり推進事業の申請にあたって、何をどう変えたのか、どこに活動の目的や対象をしばったのかなど、企画にあたっての工夫をお書きください。 ・有害とされ駆除されるイノシシ等の皮が活用されることはなかった。町内で捕獲されたイノシシの皮を東京の業者になめしてもらい、町内で皮革として革製品に加工（ワークショップ）。そして、参加者がそれを活用する。引き続きの試みとして、町内で蜂蜜づくりに挑戦することで自然資源がいかに身近に存在するかを知ることができる。これらは「産地牟佐」として、認識を深めることができる。「産地牟佐塾」が取り組むもので市民の関心のが非常に高い店頭での獣皮加工ワークショップは、特長の一つとして継続する。 ・みそづくりに提供いただく機器類の老朽化対策は避けて通れないため、リース方式など事業継続可能な手法を実現したい。 ・里山のどんぐり、樹木を活用した炭、木材として活用した木箱等々、まったく手探りだが可能性に挑戦したい。 ・写真はもちろん、取り組みを動画で記録。インタビュー等により、住民が主役の内容とする。
協働する団体等	※事業実施にあたり協働することを想定している団体・企業・大学等の名称とその団体間の役割分担について記載してください。あるいは提案団体が既に協働組織となっている場合は、事業実施メンバーの備考欄に団体名をご記入ください。 ・町内の猟・漁師（山、川）：有害獣駆除、加工処理、川資源提供 ・MATAGI プロジェクトプロジェクト（東京都墨田区 山口産業）：皮のなめし、染作業 ・岡山県セルフセンター顧問：皮革製品製作指導、加工器具提供 ・牟佐町内会：関係団体調整、本事業企画・実施、経費負担 ・牟佐区（農家組織）：被害状況報告、有害獣駆除作業の補助 ・牟佐町内会子ども会：小学生の参画について企画提案 ・牟佐まちづくり協議会構成団体（シニアクラブ、婦人部ほか）：ジビエ料理ほか調理、ワークショップ開催 ・牟佐町内ボランティア：有害獣駆除作業補助、「産地牟佐塾」へ参画 ・JA 女性部有志：みそづくり技術の伝授 ・里山の自然や炭焼きに精通する専門家：どんぐり等の解説や炭焼き復元アドバイス ・木箱づくりの専門家：「産地牟佐」の木材を活用した木箱づくり

事業の 情報公開	※区づくり推進事業は、広く区民への情報提供することが義務づけられています。地域住民をはじめ区民への情報提供、あるいは情報公開の仕方についてご記入ください。 ・町内住民へ町内会新聞やチラシ配布 ・電子町内会（町内会ホームページ）や Facebook にてネットによる情報発信 ・YouTube等への動画による情報発信 ・報道機関への情報提供 ・関係機関のホームページ：岡山市、県民局、中四国農政局、日本ジビエ振興協会ほか。ネットを通して、市内外に取り組み紹介が広がっているようだ。
学区 地区への 広がり	※小学校区・地区より狭い範囲（単位町内会等）での事業を実施される場合は、学区・地区等への活動の広がりや課題の共有などをどのように進めていきますか。取組方について記載してください。 ・連合町内会、北公民館へはチラシやニュース等配布。電子町内会や町内会コミュニティの Facebook により一般に情報提供。企画・運営は町内会が核となっているが、事業としては、積極的に参画・協働する子ども会を通じて学区内や学校へ広がり、協働する岡山県セルプセンター、猟友会等を通じて、市内・県内へ広げ、MATAGI プロジェクトを通じて、全国へも広げていきたい。 ・学区のまつり、クラインガルテン収穫祭等での獣皮製品販売を考えているが、既に2回目を実施。徐々に認知もされている様子。引き続きチャレンジしたい。 ・数年前、学区で映画「いただきます。みそをつくる子ども達」の映画上映を行い好評であった。みそづくりは、他地域でも関心は高いと思われる。去年は、一部他町内からも受け入れをしており、このような取り組みができる場所は多くないため、とても喜んでいただいている。
前年度からの 見直し 拡充点	※継続事業で申請される場合は、前年度の事業の成果を踏まえ、今年度の事業の改善・拡充点を記載してください。また審査会での助言・コメント等について改善・拡充したこと、改善・拡充ができなかった場合は、改善・拡充ができなかった理由を記載してください。 ・前年度も、続く新型コロナウイルスの感染拡大から、ほぼすべて計画していた行事を中止せざるを得ない状況となり、年度末までそれは変わらないものと察せられる。前年度やりたかったことのほとんどが実行できていないことから、新年度にそのまま引き継ぐこととしたい。しかしながら、「産地牟佐塾」の取組みだけは緊急事態宣言機関を除いてほぼ継続し、商品のクオリティもアップし、積極的に販売に力を入れたことで収益が大幅に増加した。 ・イノシシや鹿の皮革に対する関心の高さをふまえ、さらにレザークラフト教室への参加機会を拡大するとともに、「産地牟佐塾」を通して、さらに製品に磨きをかけ、「産地牟佐」ブランドづくりに挑戦してみたい。新年度も岡山刑務所での矯正展や市役所ロビーでの販売等を通じて収益づくりに挑戦したい。ネット販売については、将来の課題としたい。 ・これまでの取組みからはっきりしたことは、店頭での獣皮革加工のワークショップは、大人から子どもまでとても関心が高いこと。もちろん無料で気軽にできることもあり、一人でも多くの方に体験していただけるが、獣皮活用や地域コミュニティの取組みのPRができることは間違いなしと手ごたえを感じている。引き続き、これを一つの売りとして取り組みたい。 ・ジビエ（シシ肉入りカレー等）に対する評価も、シシ肉がとてもおいしいという感想が多く聞こえていることから、地元産のジビエの味を知っていただく機会を拡大してみたい。これについても成功すれば、将来的には「産地牟佐」のジビエとして、対価を得ることができるのではないかと考えている。引き続き、衛生基準等を学ぶなど、その方向も探してみたい。 ・平成30年、町内にある「牟佐大塚古墳」が日本遺産の構成文化財となったが、引き続き去年は、それらを中心とした「牟佐大塚古墳と歴史の道ウォーク

	・(ver.4)」と銘打ち、体験型プログラムを開催したが、古墳をモチーフとしたイノシシ皮革のタグを参加記念品としてお配りした。さらに、古墳巡りのツアー客が全国から来るようになっており、地元町内としてその受け入れ、案内をやる中でこの企画はさらに拡充させ、産地牟佐のブランドづくりに生かしたい。 ・昨年度から新しい取り組みとして、「産地牟佐」みそづくりを事業に位置付けたが、ありがたいことに、JA 女性部の先輩方が、みそづくり支援チームを立ち上げてくださり、無償でみそづくりを伝授いただける取り組みは、世代を超えて実施できた。願わくば、大豆を栽培するところから取り組みたいところであり、引き続き検討したい。 ・みそ加工場をお借りしているが、老朽化が進んだ機器もあり、持続可能とするために町内会がリース契約により新たな機器を導入し、安心して使うことができるように種々知恵を出して実現したい。 ・里山の資源を活用 里山に多種存在する「産地牟佐」の樹木やどんぐりを資源として活用できないか。あるいは、戦後も続いていたと聞く山中のあちこちで普通に行われていた炭焼きの復元ができないものか。もはや朽ちるだけとなった「産地牟佐」の木材で小箱などを作ることができないか等々、人々が山から遠ざかり、荒廃が進む里山を資源として見つめなおすことを検討したい。
次年度以降の予定	※今年度の事業を受けて次年度以後どのように活動を展開していくか、また資金の確保をどのように進めていくかをご記入ください。 ①次年度以後の活動計画 ・引き続き皮革が確保できるようであれば、同様のワークショップを開催。 ・引き続きアドバイスもいただき、ブランド化や安定した販売に取り組みたい。 ・みそづくりの伝承も定着させたい。 ・里山の自然（樹木、どんぐりなど）を資源として活用したい。 ②資金の確保について ☒次年度も区づくり推進事業を申請する予定 ☒（ 5 ）年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 資金確保の具体的な方策：革製品販売（ネット販売も研究）、手づくりみそ販売（衛生基準を満たさない限り、外への販売は不可）
その他PRしたい点	農水省が実施した「平成 29 年度鳥獣被害対策優良活動表彰」の「捕獲鳥獣利活用部門」で、中四国農政局長賞をいただいた情報は、当局から情報発信され、他地区公民館からの視察受け入れや、大学生の卒業論文の取材受け入れるまでになった。 平成 30 年度には「マニフェスト大賞優秀成果賞」、令和 2 年度には「岡山市協働のまちづくり賞」にて大賞を受賞、令和 3 年度には備前県民局より「地域づくり推進賞」を受賞させていただいた。さらに令和 4 年 1 月、第 7 回日本ジビエサミットにおいて、登壇し岡山市の「区づくり推進事業」の紹介（タイトルは「町内会が起点となった取組みの視点から」）を予定していた。しかしながら、新型コロナウイルスのオミクロン株拡大に伴い中止となってしまったが、資料だけは全国の参加申込者に対して配布いただいた。このことから自信を得て、さらに地域の活性化に取り組んでまいりたい。 令和 3 年度の備前県民局からの地域づくり推進賞受賞団体として、令和 4 年 11

	月に、伊原木岡山県知事との「生き活きトーク」への参加依頼があり、県知事を前に岡山市の区づくり推進事業をPRすることができた。 併せて、法人化された町内会、地域コミュニティーに対する民間の認識度が低いことを課題として訴えることができた。
--	---

事業スケジュール (企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。)

月日	活動内容
4月	・牟佐の自然をテーマにした写真展準備作業 ・「産地牟佐」の蜂蜜づくり事業準備 ・「産地牟佐塾」開催(週1回) ・年間を通して、フリーマーケット等で「産地牟佐」イノシシ革製品販売
5月	・町内会文化祭を活用し、牟佐の自然をテーマにした写真展の開催 ・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ(「牟佐っ子」子ども教室)準備会議立ち上げ ・「産地牟佐塾」開催(週1回)
6月	・町内会新聞6月1日号にて、「産地牟佐」区づくり推進事業を紹介 ・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ(「牟佐っ子」子ども教室)準備会議および作業 ・「産地牟佐塾」開催(週1回)
7月	・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ(「牟佐っ子」子ども教室)の準備および開催(夏休み最初の日曜日) ・「産地牟佐」の蜂蜜づくり事業紹介 ・「産地牟佐塾」開催
8月	・「産地牟佐塾」開催(週1回) ・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ準備
9月	・「産地牟佐塾」開催(週1回) ・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ準備
10月	・町内会運動会を活用し、「産地牟佐」事業の紹介 ・「産地牟佐塾」開催 ・岡山刑務所矯正展を活用し、「産地牟佐塾」イノシシ革製品販売 ・「産地牟佐」の革製品作成ワークショップ準備 ・野生鳥獣・林業振興パネル展(市役所1階ロビー)にて「産地牟佐」のイノシシ革製品販売および資源としての利活用を紹介。 ・「産地牟佐」みそづくり参加者募集
11月	・「産地牟佐塾」開催 ・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ準備および開催(大人の部) ・牧山クラインガルテン収穫祭参画(「産地牟佐」イノシシ革製品販売) ・「産地牟佐」みそづくり説明会開催 ・里山資源調査計画
12月	・「産地牟佐塾」開催 ・もちつき大会を活用し、ジビエ料理ほか(しし汁、カニ汁、はちみつetc.)試作、試食 ・「産地牟佐」の蜂蜜づくり事業紹介
1月	・町内会新聞新年号にて、「産地牟佐」の区づくり推進事業の取組み紹介 ・「産地牟佐塾」開催 ・「産地牟佐」みそづくりAチームから順番にスタート ・里山の資源調査

収支予算書

収 入

単位:円

項 目	前年度決算又は 決算見込額	予 算 額	内 容
岡山市補助金	279,100	446,500	
実施団体負担金	81,050	241,520	町内会負担金
参加者負担金	30,500	50,000	ワークショップ参加者 みそづくり参加者
協賛金			
寄附金、他収入	167,730	100,000	「産地牟佐」皮革製品販売
収入合計	558,380	838,020	

支 出

単位:円

項 目	前年度決算又は 決算見込額	予 算 額	内 容 (必ず記載してください)
①消耗品費	60,000	60,000	会議資料用紙、プリンターインク、 文具、記録媒体、皮革加工用道具類
②食糧費	0		
③印刷製本費	0	40,000	記録資料(紙)@50×100=5,000 記録資料(DVD)@50×100=5,000 カタログ作成1000部 30,000
④燃料費	0	0	
⑤光熱水費	0	0	
⑥通信運搬費	15,000	15,000	獣皮送料@1500×10回=15,000
⑦広告料	0	0	
⑧手数料	6,000	4,400	皮革なめし代振込手数料 10回
⑨使用料・賃借料	103,620	113,620	川カニかご使用料5,000、ニホンミツバチ単箱使 用料5,000、レザークラフト道具使用料5,000 みそ加工自動発酵機リース料90,420、産地牟 佐塾ハンドプレス機リース料13,200
⑩原材料費	30,000	100,000	レザークラフト材料90,000 シビエ料理材料10,000
⑪委託料	300,000	300,000	なめし加工代@9,000×30頭=270,000 皮はぎ加工代@1,000×30頭=30,000
⑫工事請負費	0	0	
⑬報償費	30,000	50,000	ワークショップ2回20,000および 「産地牟佐塾」講師料@3000×10回=30,000
⑭保険料	13,760	100,000	@10,000×ワークショップ2回、 「産地牟佐塾」等30回、みそづくり延べ 約100人、害獣捕獲後補助作業1人
⑮旅費	0	0	
小計(①)	558,380	783,020	
⑯新型コロナウイルス 感染症防止対策経費		55,000	アルコール消毒液、非接触型体温計、 飛沫感染防止用アクリル板、マスク
小計(②)		55,000	
支出合計(①+②)	558,380	838,020	

◆概算交付の可否(いずれかに○をしてください。)

補助金(3/4)の概算払いを	希望する ・ <u>希望しない</u>
----------------	---------------------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください。

- 内容欄へは使用用途等を記入してください。
- 記入欄が不足する場合は、欄を追加してください。